

日本比較文化学会中部支部  
第 13 回支部大会  
発表抄録

日時 令和 5 年 11 月 26 日(日)

会場 浜松学院大学(Zoom 大会)

日本比較文化学会中部支部

日本比較文化学会 中部支部 第13回支部大会

I 大会日程 令和5(2023)年11月26日(日)

II 支部大会スケジュール 13:00~16:20(予定)

○13:00~ 開会の挨拶(中部支部長:白鳥 絢也)

○13:05~ 研究発表

○16:00頃~ 座談会「中部支部のこれからと全国大会に向けて」

閉会の挨拶(中部支部副支部長:樋口 謙一郎)

## 「耳なし芳一」から読み解くラフカディオ・ハーンのゴーストと『怪談』の意味

那須野 絢子（常葉大学）

ラフカディオ・ハーン（1890-1904）の晩年の傑作『怪談』（Kwaidan,1904）に収録された「耳なし芳一」（“The Story of Miminashi-Hoichi”）は、最も人口に膾炙するハーン作品といっても過言ではない。1782年に編まれた『臥遊奇談』収録の「琵琶秘曲泣幽霊」を原拠とし、日本人の妻セツの語りを介してハーンに伝えられたこの物語の原話は、元来民話として類似した話が日本の地方に伝わっていたものであった。ハーンは原話の筋は変えないながらも、4倍ほどの長さにまで語りを引き延ばし、登場人物の言葉、芳一の耳が捉える外界の音、姿ない平家の亡霊たちの息遣いなど、随所に文学的技巧を施し、この作品を独自の怪談へと仕上げた。こうしたハーンの「耳なし芳一」は、一般的にいえば、現実世界に対する霊的な世界を「異界」と定義し語られる怪奇談のジャンルに組み込まれるものだろう。しかし、死者と生者、過去と現在の交わる場所に、現実とも、それに対する異界とも言い切ることのできない不思議な空間が生み出されるこの物語に、単なる怪奇談のレッテルを貼るには何とも言えないわだかまりが残る。

『怪談』はハーンが生前手にした最後の著作であり、彼の文学のいわば完成品として世に送り出されたものである。その巻頭に添えられた「耳なし芳一」が彼にとって特別な意味を持つものであったことは疑いのない事実だろう。そして、そんなハーンの熱意を組み取ったかのように、後世の読者はこの作品に大きな衝撃を受け、この物語を次の世へと語り継ぐことを惜しまない。「耳なし芳一」の原話は元来民話として伝わっている他、文字化された原典が存在することは先に記した。しかし、現在において、平家の亡霊に耳を取られた琵琶法師の物語が世に知られている所以は、民話でも江戸時代に書かれた古典でもなく、ハーンの手なる「耳なし芳一」が日本に受容され広く読み継がれてきた結果なのである。語る者と語られる者が強い絆で結ばれたそんな「耳なし芳一」において、ハーンは原話の筋を追うことの他に何を語ろうとしたのか。そして、読者はそんなハーンの世界から何を受け取り、何に心動かされるのか。本発表では、「耳なし芳一」で語られた死者と生者の交流から、ハーンのゴースト観を読み説くことで、本作品の『怪談』における意味、また、そこから見えてくるハーン文学における『怪談』の意味を考察する。

## 清末の学校唱歌集と日本：辛漢の『中学唱歌集』を例に

呂 政慧（名古屋大学大学院）

本論文は辛漢の『中学唱歌集』（辛漢著、日本鈴木米次郎校閲、1906年上海普及書店出版）を例に、清末の学校唱歌集と日本の関係を論じた。まず、辛漢は日本で留学した史実を調べたうえ、鈴木米次郎との関わり方を明らかにした。次に、明治20—30年代、日本で作られた唱歌集と対照して楽譜をみながら、『中学唱歌集』の中に収録している30曲の中国語の唱歌はどの同時代の日本の唱歌のメロディーを借用したのかを調べた。『中学唱歌集』の中に収録している30曲の唱歌のうち、6曲の「複音唱歌」（＝合唱歌曲）のすべては日本の各唱歌集にある唱歌のメロディーをそのまま借用したことが判明した次第、先行研究で結論した「『中学唱歌集』の中に収録している6曲の「複音唱歌」（＝合唱歌曲）の3曲が中国人のオリジナルで作った曲である」ことに対して、反論をつけた。24曲の「単音唱歌」（＝単旋律唱歌）のうち、現時点で明らかにしたのは、13曲が日本の唱歌のメロディーをそのまま借用して中国語の歌詞を創作したことである。他に、『中学唱歌集』の付録した楽理知識は日本の鈴木米次郎・野村成仁共編の『新編中学唱歌集』の付録した楽理知識の中国語訳であることが分かり、『中学唱歌集』と日本の関係を明確にした。

## EFL 学習者の英語ディスカッションを通じた意識の変容

松家 鮎美 (岐阜薬科大学)

### 要旨

本研究では、大学生を対象に英語ディスカッションの実践を 6 回行った。ディスカッションを行うにあたり、学生は、授業で英語表現を事前に練習し、教材を用いてテーマへの理解を深める。また、宿題として各自の意見を英語でまとめた上で、翌週の授業において、グループでディスカッションに臨んだ。グループは 3-5 人から成り、様々な学生と意見交換をするため、各回、新しいメンバー構成で行うこととした。実践の前後である新学期と学期末には意識調査を行い、その結果、情意面における向上が見られた。

### 背景

大学生の中には、英語に対する一定の知識がありながらも、英語を話すことに苦手意識を持つ者が多い。著者は、非英語専攻の学生を対象とした英語教育に携わっており、担当学生も例外ではない。そこで、半期に渡り英語ディスカッションの実践を行い、学生の意識調査を行うこととした。

### 目的

本研究では、グループごとの英語ディスカッションを実践する。意識調査を通して、英語を苦手とする学生の情意面を向上させる指導法について検討する。

### 方法

英会話の授業を受講する 2 年生 40 名を対象に英語ディスカッションの実践を行う。実践前後である新学期と学期末に学生の英語意識を調査し、学期末には自由記述として、新学期と比べてできるようになったことと、学期末時点でも困難だと感じる点について尋ねる。本研究では学生の回答をカテゴリー分けした上で分析を行う。

### 結果と考察

6 回の英語ディスカッションを通して、学生は英語を話すことに対する意識を向上させた。「英語で自分の意見を伝えることができる」は 36 ポイント、「相手の意見を適切に理解することができる」においては 29 ポイント上昇した。その他、友人と一緒にあれば、海外の人とも対話ができるという回答も増加した。自由記述では、ディスカッションを通して英語表現力が向上したとする意見が最も多かったが、即興で話すことや専門的なテーマについて対話することは難易度が高く、継続した実践が必要であると言える。

## 教育課程の変遷を見つめる その4

### －「学習指導要領」（昭和33・43・52年度版）に着目して－

白鳥 絢也（常葉大学）

本発表は「教育課程の変遷を見つめる その3－「学習指導要領（試案）」（昭和22・26年度版）に着目して－」（日本比較文化学会中部支部令和4年度例会「発表抄録」, p.2, 浜松学院大学, 2023年3月26日）の続編に当たるものである。「試案」であった昭和22・26年度版・学習指導要領を念頭に置きながら、今回は昭和33・43・52年度版の学習指導要領に着目し、教育課程変遷の大きな流れを見つめ、これからの学校教育のあり方を念頭に、学習指導要領の求めるものを改めて模索していく。昭和33年度版では「道徳」の時間の特設や学習指導要領の「法的拘束力」が強化されたこと、昭和43年度版では「教育内容の現代化」が掲げられたこと、昭和52年度版では「子どもの学習負担の軽減」などが改訂の柱として掲げられたこと等が挙げられる。

昭和33年度版（1958）の学習指導要領では、「教育課程の基準としての性格の明確化」が掲げられ、全文が基準であるとし、基準を上回ることも下回ることも好ましくないと指導が入った。また、33年度版から「試案」の文字が削除され、このことから、学習指導要領は「法的拘束力」を持つものとし、官報に掲載されるようになった。改訂のポイントは、①「道徳の時間」の新設、②系統的な学習を重視、③基礎学力の充実、④科学技術教育の向上、の四つが挙げられる。

昭和43年度版（1968）の学習指導要領では、「教育内容の一層の向上」が掲げられ、教科書の内容も扱うべき項目の配列順序も、学習指導要領によるべきであるとした。この時代、わが国は高度成長の進行期にあり、目に見えて庶民の生活が豊かになっていった。改訂のポイントは、①教育内容の現代化、②時代の進展に対応した教育内容の導入（算数における集合の導入等）、の二つが挙げられる。

昭和52年度版（1977）の学習指導要領では、「ゆとりのある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化」が掲げられ、教育の荒廃、子どもの心の荒廃が指摘され、「第三の教育改革」と銘打って出されたものである。ここで注目すべき点は、「ゆとり」という言葉を、文部省がこの時点で使用していたことである。改訂のポイントは、①知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童生徒の育成、②教育内容の精選、③「ゆとりの時間」、④各教科等の目標・内容を中核的事項にしぼる、の四つが挙げられる。

## 海外につながる高校生の文化的アイデンティティを考察する ーダバオ市と浜松市の教育機関の連携による海外オンライン協働学習（COLP）の導入

田島 喜代美（常葉大学）

### 1. 背景

1990年に改正入管難民法により、静岡県西部には多くのデカセギ労働者が流入したが、その子どもたちの母語の喪失またそれに伴う学力不振が、進学妨げになっている。本研究は、「受け入れ地域」の浜松市と、「送り出し地域」のフィリピン共和国ダバオ市の教育機関が連携した海外協働学習オンラインプラットフォーム、COLP（Cooperative Online Learning Program for Future Global Leaders 以下 COLP）の教育効果を検証する。

### 2. COLPの導入以前の海外協働学習の課題

①協働学習の一貫性と連続性の欠如 ②双方向性の不足 ③グループワークの取り組みの不足 ④文化的な違いへの対応の不足 ⑤Motivationの維持の不足が、あげられる。

### 3. COLPの導入

COLPは、LMS（学習管理システム）とLCS（学習コミュニティシステム）の機能を持つ。実施においては、浜松市内の県立高校定時制および、ダバオ市の公立高校を対象とした。

### 4. COLPの効果：非同期学習による学習の一貫性と継続性、効果的な学習環境の構築

- (1) 柔軟性と個別対応
- (2) 深い理解度の促進
- (3) 協働学習の促進：学習者同志の対話とディスカッションの強化
- (4) 大学生ボランティア教員との個別コミュニケーション
- (5) 多様な学習スタイルへの対応
- (6) 授業資料のオンライン上での提供
- (7) 評価とフィードバックの改善

### 5. COLPによるデータ収集方法：ダバオ市と浜松市の高校生のフォーラムから分析

1	テーマにより区別
2	感情や態度
3	言語の特徴や表現の異なり
4	発言者の背景の記録
5	発言の相関関係の把握
6	発言の数量や頻度の分析

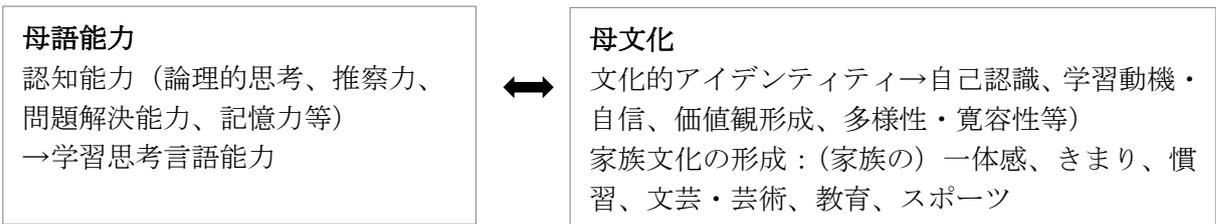
- (1) 国際移動する高校生の文化的アイデンティティの相違と変容の抽出
- (2) 浜松市の日系高校生のトランスナショナルな文化的アイデンティティを抽出

## 海外につながる高校生の卒業後の進路について－文化資本の視点から

津村 公博（浜松学院大学）

### 背景

- (1)先行調査：海外につながる日系第2世代の青年に対する意識調査
- (2)保護者から継承される文化資本（母語能力・母文化）

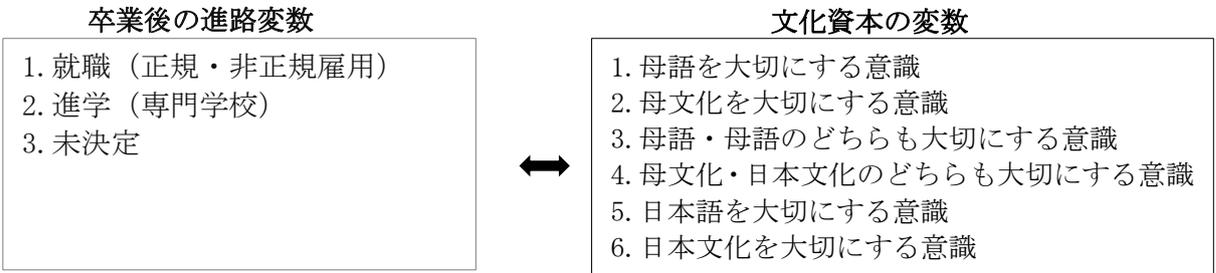


### 調査の目的

この調査の目的は、外国人の高校生が保護者から継承する文化資本（母語・母文化）が、進路の選択（正規雇用、非正規雇用、未決定）にどのように影響するかを明らかにする。  
仮説：「文化資本が進路変数に影響を与える」

### 調査方法

アンケート調査：因子分析（42項目5件法）



対象者：静岡県立浜名高校定時制の生徒（15人）

A	未決定	フィリピン共和国	日系人
B	就職(正規・非正規)	ブラジル連保共和国	日系人
C	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	日系人
D	未決定	フィリピン共和国	日系人
E	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	日系人
F	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	日系人
G	専門学校	ブラジル連保共和国	日系人
H	専門学校	ブラジル連保共和国	日系人
I	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	日系人
J	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	非日系人
K	専門学校	フィリピン共和国	日系人
L	専門学校	フィリピン共和国	日系人
M	就職(正規・非正規)	フィリピン共和国	日系人
N	未決定	フィリピン共和国	日系人
O	未決定	フィリピン共和国	日系人

## 「現地人」と「原住民」のはざままで：井伏鱒二の南方徴用体験考

二村 洋輔（至学館大学）

井伏鱒二（1898-1993）は広島県出身の作家であり、昭和期の日本を代表する著名な作家である。代表作としては、国語の教科書への載録等により広く日本人に読まれている「山椒魚」や、放射線を含む「黒い雨」で被曝した姪の発病などの、原爆による悲劇を描く『黒い雨』などがある。

井伏文学に関する研究の蓄積には厚みがあるが、彼の戦争体験などに焦点を当てた研究が本格的に進められ始めたのは、神谷忠孝や木村一信らを中心とした「南方徴用作家」に関する研究プロジェクトが開始されてからである。井伏の南方徴用体験に関する先行研究としては、シンガポール滞在中に執筆された『昭南日記』や、同地における日本統治下の言語規範の変質の問題を描いた『花の町』を用いたものがあり、それぞれ、井伏の南方における戦争体験や言語政策における問題を扱っている。本発表では、上記のような先行研究における蓄積に立脚しながら、先行研究の中では比較的言及の少ない『徴用中のこと』をテキストとして読解し、そこにおける井伏の徴用体験を考察していく。そうすることにより、井伏研究および、帝国日本における戦争文学研究における新たな視点を提示することを試みる。

井伏には多くの作品があるが、今回は彼の南方徴用体験ということに焦点を当てた作品である『徴用中のこと』（1996）に収録されている作品群における井伏の「原住民」表象の分析を行う。作中において現地にて生活を送る人々を形容する際、井伏は「現地人」、「原地人」、「華僑」、「印度人」、「ユーラシアン」など、文脈によって使用する語を使い分けている。本研究の目的は、テキストを批判的に検討することによって、そのような用語の使い分けの意味することを考察することにある。そのようなことを行うためにはより広範囲なテキストの分析が必須であるが、今回はあえて分析の範囲を限定することによって、以降の研究における理論的枠組みの構築の一助とすることを旨とする。

## 米国立公文書館における米軍政期南朝鮮（1945-1948年）の 言語政策関連資料について

樋口 謙一郎（相山女学園大学）

本発表では、米軍政期南朝鮮(1945-1948年)の言語政策に関する米国立公文書館(NARA)所蔵資料の所在と特徴を検討する。

NARA の米軍政期南朝鮮に関する資料は RG554(Records of General Headquarters, Far East Command, Supreme Commander Allied Powers, and United Nations Command)をはじめとする複数箇所に所在し、主に韓国の研究者によって収集が進められ、一定の研究成果が提出されている。

一方で、既存研究のなかにはアーカイブズ学における「出所原則」や「原秩序尊重の原則」への認識が不十分なまま個別文書を主題ベースで追求、利用し、紡いだものも少なくなく（発表者の過去の研究業績を含め）、やや極論的に言えば「断片的な政策の集成」を「言語政策史」としてきているため、政策立案過程や政策遂行リソース(予算や人員など)をめぐる全体像を捉えきれているとは言いがたい。

本発表はかような既存研究の諸問題の解消を目指す出発点として、NARA 所蔵の米軍政期南朝鮮の言語政策関連資料の所在を明らかにし、当時の米軍政当局の言語政策担当・関連部署と政策の全体像を詳らかにする一助としたい。また、アーカイブズ学の知見から研究史を再検討し、研究を深化・再構築する方途を探る基礎とする。

なお、これは令和5年度国文学研究資料館アーカイブズカレッジ修了論文執筆に際して実施した調査研究成果の一部である。今回の学会発表にあたっては、本研究はJSPS 科研費 20H01293 の調査研究成果も併せて活用させていただいた。

### 主要参考文献

ブルース・カミングス(2012)『朝鮮戦争の起源 1:1945年-1947年解放と南北分断体制の出現』明石書店  
(Bruce Cumings, *Origins of the Korean War, Vol. 1: Liberation and the Emergence of Separate Regimes, 1945-1947*, Princeton University Press, 1981)

小林聡明(2018)「メディア史研究におけるマルチ・アーカイヴァルな研究手法の可能性:資料調査における自らの反省と教訓をふまえて」『マス・コミュニケーション研究』93巻、17-42.

Cooper, Robert L.(1989)*Language Planning and Social Change*, Cambridge University Press.

**○座談会「中部支部のこれからと全国大会に向けて」**  
**16:00 頃～ ※終了後、解散**

「座談会」におきましては、「2024 年度日本比較文化学会第 46 回全国大会(国際学術大会)」について、そのテーマと概要、開催形態、役割分担等について取り上げてまいります。みなさまのご参加をお待ちいたしております。

---

**《2024 年度日本比較文化学会第 46 回全国大会(国際学術大会)開催のお知らせ》**

大会実行委員長 樋口 謙一郎 (椋山女学園大学)

2024 年度第 46 回全国大会(国際学術大会)を、以下の要領で開催いたします。

- ・ 日時:2024 年 5 月 18 日(土)
- ・ 会場:椋山女学園大学 星が丘キャンパス (名古屋市千種区星が丘元町 17-3)
- ・ 大会テーマ:「比較文化学と情報社会 : AI 時代の到来を踏まえて」

**\*大会実行委員長からのメッセージ**

比較文化学と情報社会の関係を深く理解し、その影響や意義を探求することの重要性が高まっています。AI 時代の到来を踏まえ、比較文化学の使命や課題、方法も大きく変化する可能性があります。全国大会に国内外の研究者や専門家が集い、研究成果や実践事例の共有と意義深い交流が実現することを祈念しております。どうぞよろしく願いいたします。

**\*発表募集**

全国大会での口頭発表の申込期間は次の通り予定しています。

- ・ 2023 年 12 月 1 日:申込開始
- ・ 2024 年 1 月 31 日:申込締切

今後、大会関連情報は学会 HP に随時掲載いたします。奮ってご応募の程お願い申し上げます。